～欣浄寺法語メール～２０１６年６月～

蝋燭や線香を仏さまにお供えすることをお荘厳（しょうごん）と言いますが、お飾りというやさしい表現もあります。「線香は何本ですか？」とのお尋ねを時おりいただきますが、「御焼香の時、何グラムお香をつまむか量りませんよね。ですから、何本でもよいのですと」私なりの解釈で説明し、「ただし、線香は香炉に突き立てずに折って横にしてお供えしてください」と申し添えます。

さて、お荘厳はお仏壇の中だけのことかといえばそうではありません。「作法荘厳（さほうしょうごん）」と言って、以前この法語メールでお伝えしました「合掌礼拝」も、そしてお仏壇前での立ち居振る舞いの一つ一つが仏さまへの荘厳（お飾り）なのです。行儀

作法の言葉のように、「美しくきれいに」が基本です。

　作法荘厳は目に見えることだけではありません。お勤めには欠かせない「リン」もそうです。「リン」を鳴らすとき、内側か外側かどちらをたたけばよいのでしょうか？正解はどちらでもかまいません。お寺の本堂にある大きなリン・大キンは外側、内陣にある中型のリン・沙羅（さわり）は内側と決まっていますが、お仏壇の小型のリンには決まりがありません。お荘厳のように「美しくきれいに」鳴るようにたたくのが基本です。

　住職がお参りに伺ったとき、リンの内側や外側をたたいているのをご覧になっていいかげんだなあとは是非思わないでください。バチでたたいて最も美しくきれいに鳴る場所を

探しているのです。ですから、リンは内側外側どちらでもたたけるように、お仏壇の中ではなく座る右側の畳の上に置くようにします。